

科目名 Course Name	手話 Sign Language				ナンバリング No.	03-09-01	
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	井澤 早苗						
連絡方法	C-Learning に対応。または非常勤講師室。						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1,DP2,DP3						
授業の概要と到達目標	<p>聴覚障がい者のコミュニケーションにはいくつかあるが、特にろう者といわれる高度難聴の人たちにとって、手話はもっとも大切なコミュニケーションの手段である。</p> <p>この授業では日本語(音声言語)と日本手話(手話語)との違いを認識し、聴覚障がい者(特にろう者)の用いる真の手話を学ぼうとするものである。</p> <p>厚生労働省策定手話奉仕員養成カリキュラムの入門編「相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができること」を到達目標とする。</p>						
授業の方法	<p>手話は話し言葉であるので、生徒と講師、生徒同士で様々な会話をしながら、伝え合う内容を広げていく。</p> <p>テキストの単語、練習文などイラストを参考にし、講師の手話を見てもらい、真似して表現する。</p> <p>全国各地のろう者の手話の DVD 見て、ろう者の手話表現を知る。</p>						
学習成果	L01	① 手話の基本となる「手や身体の動きや表情を使って伝え合う」ことを学ぶ。 ② 手話で自己紹介ができる。 ③ 身近な話題をもとに簡単な会話ができる。					
	L02						
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	手話読み取り実力テストは、試験後に模範解答を示し、試験結果は授業内に各自にフィードバックする。						
教科書/参考図書	厚生労働省手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」						
履修上の留意点やルール等	各自履修の目的を明確にする。授業中に理解度の意思表示をはっきりすること。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。						
担当教員の実務経験	手話通訳者:34年 栃木県登録手話通訳者及び栃木県手話奉仕員養成講師						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート/作品					
発表	習った手話を使って、自己紹介等の手話表現ができる。	20			
小テスト					
試験	テキストの内容を十分に理解している(手話技能検定の過去問題実施)	80			
その他					
合計		100			

	回数	授業計画
1	授業内容	1・2講座「伝え合ってみましょう」
	事前・事後学習	指文字表の確認
2	授業内容	3講座「名前を紹介しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P10～P11
3	授業内容	4講座「家族を紹介しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P12～P13
4	授業内容	5講座「数を使って話をしましょう」
	事前・事後学習	テキスト P14～P15 野菜の名前の練習
5	授業内容	6講座「趣味について話をしましょう」
	事前・事後学習	テキスト P16～P17 指文字の練習
6	授業内容	7講座「仕事について話をしましょう」
	事前・事後学習	テキスト P18～P19 DVD での自宅学習
7	授業内容	8講座「住所を紹介しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P20～P21 資料 各都道府県の手話
8	授業内容	9講座「自己紹介のまとめ」
	事前・事後学習	テキスト P22～P23
9	授業内容	10講座「一日の事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P24～P25 講義 聴覚障害者の生活
10	授業内容	11講座「一か月の事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P26～P27
11	授業内容	12講座「一年の事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P28～P29 手話辞典の紹介
12	授業内容	13講座「パーティーの事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P30～P31
13	授業内容	14講座「旅行の事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P32～P33 コミュニケーションの基本学習
14	授業内容	15講座「病院の事を話しましょう」
	事前・事後学習	テキスト P34～P35 手話通訳派遣事業
15	授業内容	手話演習 まとめ 今まで学んだ手話を使ってろう者と話そう
	事前・事後学習	期末試験に向けてテキストの復習